

主催者挨拶

全国高専テクノフォーラムの開催にあたって

第1回全国高専テクノフォーラム

実行委員会委員長

釧路工業高等専門学校校長 木谷 勝

本フォーラムの準備経過についてお話しします。平成14年に鈴鹿高専において全国高専テクノサミット - 全国高専産学官連携活動推進会議 - が開催され、大きな成果を上げました。その成果を継承しさらに発展させるために、これを国専協が主催する全国高専テクノフォーラムとして継続的に開催することになりました。担当は第3常置委員会です。

この委員会において、企画運営のための運営委員会をおくこと、ブロック単位で北から順番に開催すること、第1回は北海道地区の釧路高専が開催校となることなどが決定されました。ただし、第1回フォーラムについては、日程の関係から運営委員長の久留米高専柳校長および釧路高専校長に、その趣旨・協議事項および実行委員会の設置が一任されました。

これを受けて、道内4高専、運営委員長校の久留米高専、鈴鹿高専からの教官7名を委員とする実行委員会が設置されました。実行委員長は釧路高専校長が務めました。

実行委員会はメールによる意見交換を経て東京で開催し、フォーラム日程、セッションの構成と運営、座長の分担などを決定しました。それ以降の細部の打合せは電子メールによって行いました。

総会基調講演を(財)北海道科学技術総合振興センター理事長の戸田一夫様にお願いし、ご多用の中をご快諾いただきました。また部門基調講演の一つを釧路工業技術センター長東藤勇様、総会特別講演を四ッ柳国専協会長、開催校の地域共同テクノセンター長岩淵教授にお願いしました。

当初27件の事例発表を予定していましたが、幸いに全国高専から予想以上に多くの発表申込みがあり、38件を採択しました。参加者は全国の国公立高専59校から約150名にのぼります。なお、このフォーラムは地域住民の方々に公開し、高専の産学連携について理解を深めていただくことにしました。

サブタイトル「産学協力に向けて全国高専はいかに連携するか」が示すように、今回のフォーラムが各高専と地域産業界との連携の進展、そのための情報交換、ネットワークづくりに貢献することを念願しています。

末筆ながら、フォーラム開催にあたって釧路市から多大のご援助、ご協力をいただいたことに心から感謝申し上げます。